

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原南小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	66人	算数	66人	理科	66人
第5学年	国語	68人	算数	68人	理科	68人

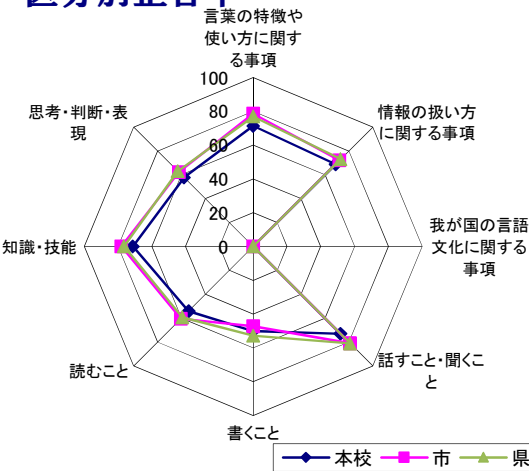
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原南小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	71.4	78.6	76.9
	情報の扱いに関する事項	68.9	72.2	73.1
	我が国の言語文化に関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	73.0	81.0	81.1
	書くこと	50.0	47.2	52.8
	読むこと	54.1	60.5	59.3
観点	知識・技能	71.2	78.0	76.5
	思考・判断・表現	57.8	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

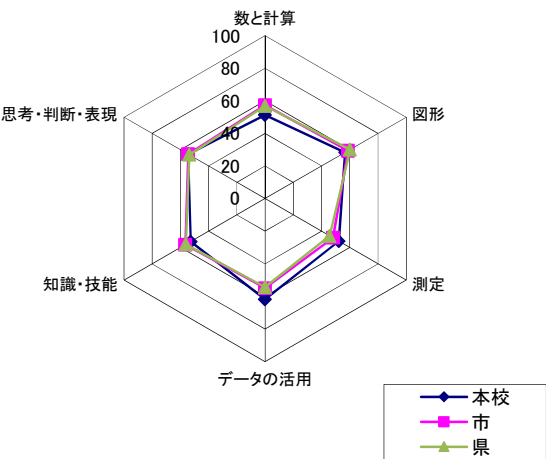
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	●平均正答率は71.4%で、市の平均正答率より7.2ポイント下回っている。特に、既習漢字の書き取りとローマ字を正しく読む問題では、市の平均正答率を下回っていて、定着が不十分である。 ○正しい指示語を選ぶ問題では、指示語の役割を理解し、適切に使うことができています。	・スキルアップタイムの活用や、AIドリルでの学習や繰り返しの練習をするとともに、適宜確認テストの実施を行うなどして、漢字やローマ字の読み書きの基礎基本の定着を図る。 ・漢字の活用力を付けるために、国語ドリル等を活用し、文中の漢字を読んだり書いたりする練習に取り組ませる。 ・主語と述語を意識した短文作りや読み取りをさせることで、引き続き適切な係り受けの関係を理解できるように指導する。
情報の扱いに関する事項	●平均正答率は68.9%で、市の平均正答率より3.3ポイント下回っている。 ●国語辞典の使い方についての理解が不十分である。	・国語辞典の使い方を理解させるとともに、国語辞典や図書資料を積極的に活用し、多くの情報に触れさせ、その中から必要な情報を選択する学習活動を意図的に設ける。
話すこと・聞くこと	●平均正答率は73.0%で、市の平均正答率より8ポイント下回っている。 ●話し方の工夫を捉えることについての問題や、司会の役割を果たしながら話し合い、参加者の発言を基に考えをまとめることについての問題では、ともに市の平均正答率を下回っていて、課題が見られる。	・国語だけではなく、朝の会の1分間スピーチや学級活動において、相手に伝わるように話したり、聞き手が質問したりする場面を設定して、基本的な話し方・聞き方を身に付けさせるようにする。 ・メモから必要な内容を整理し、相手に伝えたり確認したりする活動を取り入れる。 ・話し合いをするときは、目的や進め方を確認し、互いの意見の共通点や相違点に着目して話し合いを進めるように指導する。
書くこと	○平均正答率は50.0%で、市の平均正答率より2.8ポイント上回っている。 ○自分の考えを明確にして、文章を書くことができています。 ●指定された長さや、2段落構成で文章を書くことに課題が見られる。 ●いずれの問題においても、無回答率が21.3%で書くことに課題が見られる。	・自分の思いや考えを、他者に伝える機会を設け、理由や根拠を基に、段落のまとまりを意識した文章で書くことができるように指導する。 ・日記や作文、学習の振り返りなど、文を書く活動を意図的に取り入れた指導を、国語科だけでなく学校生活全体で取り組む。
読むこと	●平均正答率は54.1%で、市の平均正答率より6.4ポイント下回っている。 ●物語文も説明文も、叙述を基に登場人物の気持ちや文章の内容を捉える問題の平均正答率は市の平均正答率を下回っており、課題が見られる。	・物語教材では、学び合いの場を設け、登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像できるように指導する。 ・説明文に多く触れさせ、段落のまとまりを意識して読んだり、文章の中心を捉えて要点をまとめたりする指導をする。

宇都宮市立清原南小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	51.3	57.4	56.9
	図形	56.6	58.7	60.1
	測定	52.1	48.1	45.7
	データの活用	61.8	54.9	54.3
観点	知識・技能	52.8	56.6	56.2
	思考・判断・表現	54.5	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

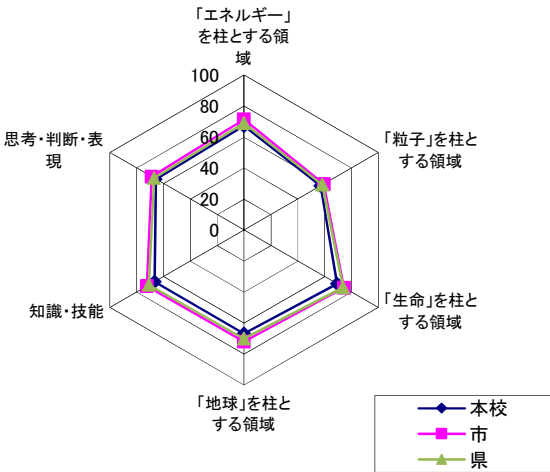
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●平均正答率は51.3%で、市の平均正答率より6.1ポイント下回っている。 ○小数を数直線の上に表すとき、どこに位置するかを説明する問題では、平均正答率が45.9%で、市の平均正答率より3ポイント上回っている。 ●数直線で、目盛りが表す数の大きさを分数で答える問題では、平均正答率が26.2%で、市の平均正答率より20.6ポイント下回っている。 ●大きな数の表し方についての問題では、平均正答率が37.3%で、市の平均正答率を10.3ポイント下回っている。	・分数の大きさについては、数直線を用いた指導を大切にし、1を何等分したかに着目させながら、分母と分子の意味を理解できるようにさせる。小数を指導する際も数直線等をもとにして考え、理解を図るように指導する。 ・スキルアップタイムを活用し、基本的な計算問題に取り組み、繰り返し練習をすることで計算力の習熟を図る。
図形	●平均正答率は56.6%で、市の平均正答率より2.1ポイント下回っている。 ●二等辺三角形の性質を理解し、3つ目の頂点を見付ける問題では、平均正答率27.9%で、市の平均正答率より5.2ポイント下回っている。 ●球を平面で切った切り口の形を理解しているかの問題では、平均正答率が67.2%で、市の平均正答率より2.5ポイント下回っている。	・三角形や円などの様々な図形の定義を押さえるとともに、デジタル教科書やICT教材を活用して視覚的に捉えられるように工夫をすることで、多面的な見方ができるようにする。 ・過去に学習した図形の知識を想起させ、新しい図形の特徴を調べる際に応用して考えるようにさせることで、知識をつなげ、正しく理解できるように指導を工夫する。
測定	○平均正答率は52.1%で、市の平均正答率より4ポイント上回っている。 ○長さの単位をそろえ、2つの道のりを比べる問題では、平均正答率が60.7%で、市の平均正答率より7.4ポイント上回っている。 ○時間が経過する前の時刻を答える問題では、平均正答率が62.3%で、市の平均正答率より5.1ポイント上回っている。	・日常生活の中で、時間の長さを意識させる場面を設定することで、経過した時間から時刻を求める方法の理解を深めるようにする。 ・時間が経過する前の時刻を求める問題において、時計模型を使ったり、図に表現したりするなど視覚的にとらえやすいように工夫し、正しい時刻を求めることができるようにする。 ・単位の意味を理解し、長さや重さの単位の換算ができるように、日常生活においても単位を使う場面を増やして、感覚を豊かにする。
データの活用	○平均正答率は61.8%で、市の平均正答率より6.9ポイント上回っている。 ○目的に合わせて選んだ棒グラフが適切である理由を選ぶ問題では、平均正答率が52.5%で、市の平均正答率より9.1ポイント上回っている。 ○二次元の表から傾向を読み取る問題では、平均正答率が67.2%で、市の平均正答率より7.1ポイント上回っている。	・棒グラフの各項目の数量やその違いを読み取る問題に繰り返し取り組むことで、数量の大きさの違いを一目で比べることができるよさを実感しながら棒グラフについての理解を深めるようにする。 ・表やグラフの読み取り方について、社会など他教科と関連付けて活用するようにし、表を読み取る力を高めていく。また、表から読み取ったことを表現する際には、言葉や文で適切に表現できるように対話的活動の充実を図る。

宇都宮市立清原南小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	67.2	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	57.0	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	69.3	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	66.8	72.0	70.1
観点	知識・技能	66.7	72.5	70.9
	思考・判断・表現	65.7	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	●平均正答率は67.2%で、市の平均正答率より4.2ポイント下回っている。 ○糸電話のモデルから音の伝わり方についての問題では、平均正答率が68.9%で、市の平均正答率より2.9ポイント上回っている。 ●電気の通地道的の名称を問う問題では、平均正答率が55.7%で、市の平均正答率より9.4ポイント下回っている。	・関連する理科用語については、理解を深めるために、機会を捉えて授業の中で確認したり、たしかめプリントを使ったりして定着を図っていく。 ・機器の扱い方や操作の習熟を図り、適切に実験ができるように支援する。 ・実験のデータを基に考察する際に、データから分かることを原因と結果を結び付けて考え、論理立てて説明できるよう指導していく。
「粒子」を柱とする領域	●平均正答率は57.0%で、市の平均正答率より2.3ポイント下回っている。 ○同じ重さのおもりの中で一番大きい体積を答える問題では、平均正答率は44.3%で、市の平均正答率より7.6ポイント上回っている。 ●形と重さの関係について問う問題では、平均正答率は19.7%で、市の平均正答率よりも7.3ポイント下回っている。	・今後も興味関心をもって実験や観察を続けられるよう授業改善に取り組むとともに、体験として理解できるような機会を増やす。 ・実験結果を予想させ、その考えの過程を大切に結果に反映できるような考察を、実験の結果をもとに表に整理したり、物の形と重さ考え説明したりする活動の充実を図る。
「生命」を柱とする領域	●平均正答率は69.3%で、市の平均正答率より5.2ポイント下回っている。 ○身の回りの生き物の育ち方の違いを捉える問題では、平均正答率は50.8%で、市の平均正答率より8ポイント上回っている。 ●昆虫の体のつくりやあしの数を比較して、クモが昆虫であるかを判断する問題では、平均正答率は47.5%で、市の平均正答率より16.5ポイント下回っている。	・単元の導入や振り返りで、学習したことと実際の生活を関連付けて考えるようにしていく。 ・ICT、動画資料や模型等を活用し、直接調べることが難しい内容についても知識を補えるようにしていく。
「地球」を柱とする領域	●平均正答率は66.8%で、市の平均正答率より5.2ポイント下回っている。 ○方位磁針の正しい使い方を選ぶ問題では、平均正答率は67.2%で、市の平均正答率より1.5ポイント上回っている。 ●日なたと日陰の特徴について、地面の温度の違いを基に正しく考えることができるかを問う問題では、平均正答率は45.9%で、市の平均正答率より13.2ポイント下回っている。	・日常生活の中でも、天気と気温の変化の関係を見出していくなど、生活と密接な知識が獲得できるように、授業時間以外でも働きかけていく。 ・視覚的に理解を深めるための映像資料を積極的に活用する。マクロな視点で事象を捉えることで、知識の定着を図る。

宇都宮市立清原南小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、テストでまちがえた問題について勉強をしている。」に肯定的回答をした児童の割合は77.3%で、市の平均より12.4ポイント上回っている。児童は自分の苦手とするところを復習する意識をもち、取り組むことができている。しかし、他の家庭学習に関連する質問では、市の平均を下回っているものも多い。今後は、苦手を克服したうえで、さらに自主的に学習する習慣を身に付け、深めることができるように支援していくとともに、家庭学習の大切さについて学級懇談等で啓発し、家庭と連携して家庭学習の定着化を図っていくようにする。

○「授業の中で、目標がしめされている。」に肯定的回答をした児童の割合は94.0%で、市の平均より4.6ポイント上回っている。また、「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。」に肯定的回答をした児童の割合は77.3%で、市の平均より1.4ポイント上回っている。めあてを明確に提示することで、授業や解決の見通しをもつことによって授業に取り組むことができている。また、振り返りをしっかりと行うことで、取り組んできたことに達成感を感じる児童が多いことが伺える。引き続き、めあてや見通し、振り返りの時間を設け、児童の学習意欲を高めていくようにする。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことがむずかしい。」に肯定的回答をした児童の割合は71.2%で、市の平均より6ポイント上回っている。また、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」に肯定的回答をした児童の割合は45.4%で、市の平均より6ポイント下回っている。自分の考えをまとめ、発表することに苦手意識がある児童が多い傾向にあることが伺える。今後は、まとめ方のポイントや型を示すことで、書けたという成功体験をつませ、自信をもって表現できるように指導していく。

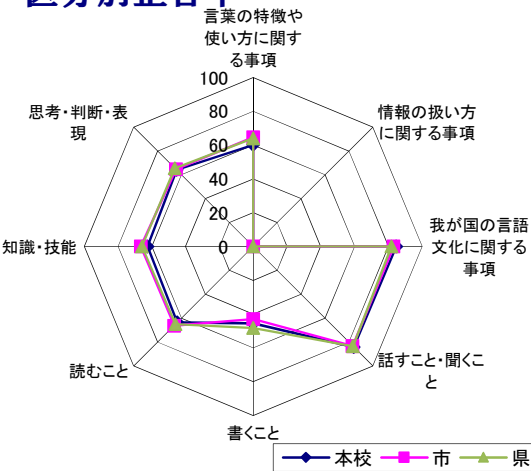
○「しよる来のゆめや目標をもっている。」に肯定的回答をした児童の割合は92.4%で、市の平均より1.1ポイント上回っている。しかし、「じぶんにはよいところがある。」に肯定回答した児童の割合は86.3%で、市の平均より1.2ポイント下回っている。将来の夢や目標をもっているが、自分に自信がない児童が多いことが伺える。今後も、学級活動などで互いを認め合う活動を取り入れ、機会を逃さず称賛するなどして、自己肯定感や自己有用感を高められるように指導し、将来の夢や目標にむかう意欲を高めていく。

●「毎日、同じくらいの時こくにねている。」に肯定的回答をした児童の割合は71.2%で、市の平均より4.5ポイント下回っている。また、「ふだん1日どれくらいテレビゲームをしますか。」に3時間以上と回答をした児童の割合は34.9%で、市の平均より10.2ポイント上回っている。規則正しい生活習慣が身に付いていない児童が多いことが分かる。規則正しい生活の大切さについて指導していくとともに、保健だよりを活用したり、学級懇談で取り上げたりするなどして、家庭と連携して取り組

宇都宮市立清原南小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	60.2	64.7	64.1
	情報の扱いに関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化に関する事項	84.6	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	84.2	83.3	83.4
	書くこと	45.4	42.8	48.2
	読むこと	63.7	66.1	65.1
観点	知識・技能	62.6	66.5	65.9
	思考・判断・表現	64.2	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

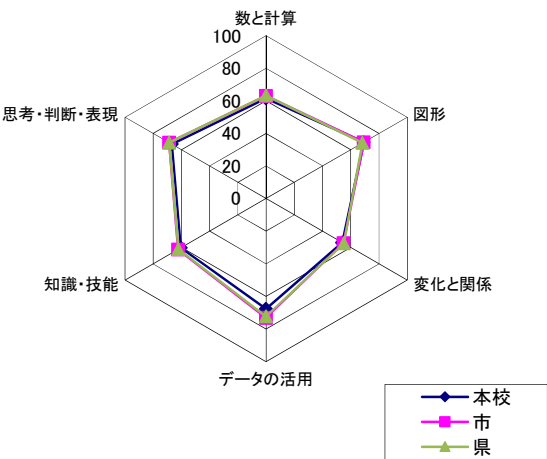
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	●平均正答率は60.2%で、市の平均正答率より4.5ポイント下回っている。 ●漢字の読み書きでは、漢字を書くことにおいて、前学年に配当されている漢字の定着が不十分である。また、無回答率が高いものもある。 ●文の中における修飾と被修飾の関係を捉える問題では、市の平均正答率より10.9ポイント下回っている。	・スキルアップタイムの活用や、AIドリルでの学習や繰り返し練習の練習をするとともに、適宜確認テストの実施を行うなどして、漢字やローマ字の読み書きの基礎基本の定着を図る。 ・文の構成に着目させ、修飾と被修飾の関係を意識した短文づくりや読み取りができるように指導する。
我が国の言語文化に関する事項	○平均正答率は84.6%で、市の平均正答率より1.5ポイント上回っている。 ○ことわざの意味を理解して、正しく使うことができる。	・国語の授業だけでなく、生活経験と結び付けてことわざや慣用句、故事成語に触れる機会を設け、先人の知恵や教訓や意味を知り、日常生活で使えるように指導していく。 ・学校図書館を利用して、ことわざや慣用句、故事成語に慣れ親しむ時間をつくる。
話すこと・聞くこと	○平均正答率は84.2%で、市の平均正答率より0.9ポイント上回っている。 ○話し合いでは、司会者の役割を果たしながら、参加者の発言を基に考えをまとめることができている。 ●話し合いの中で、目的を確認し意見の共通点や相違点に着目しながら、自分の考えをまとめることに課題が見られる。	・国語だけではなく、朝の会の1分間スピーチや学級活動において、相手に伝えるように話したり、聞き手が質問したりする場面を設定して、基本的な話し方・聞き方を身に付けさせるようにする。 ・授業におけるペア活動やグループ活動において、互いの意見を比較し、意見が異なるときは意見の根拠について考えるように指導する。
書くこと	○平均正答率は45.4%で、市の平均正答率より2.6ポイント上回っている。 ●書きたいことの中心を明確にし、事実を伝える文章を書くことについては、市の平均正答率を上回っているが、平均正答率が40パーセントと低く、課題が見られる。 ●無解答率が20%ある。	・日記や作文、ノート指導など、文を書く活動を意図的に取り入れ、書くことに慣れさせるとともに、基本的な文の記述の仕方を身に付ける指導を継続して取り組む。 ・内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落を作ったり、段落相互の関係に注意したりして文章を書けるように指導する。
読むこと	●平均正答率は63.7%で、市の平均正答率より2.4ポイント下回っている。 ○物語文では、登場人物の気持ちの変化について具体的に想像して捉えることができている。 ●説明文では、叙述をもとに指示語の内容を捉えることや、情報と情報との関係について理解し、内容を要約することに課題が見られる。	・指示語が指し示す内容について、確認する活動を意図的に取り入れ、正しく文章を読み取れるように指導する。 ・事実と感想、意見などの関係を叙述をもとにおさえ、文章全体の構成を捉えて、要旨を把握する活動を取り入れる。

宇都宮市立清原南小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	61.5	63.0	63.3
	図形	69.2	69.2	68.3
	変化と関係	53.9	54.8	55.0
	データの活用	67.7	73.1	72.3
観点	知識・技能	60.5	62.3	62.1
	思考・判断・表現	66.8	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

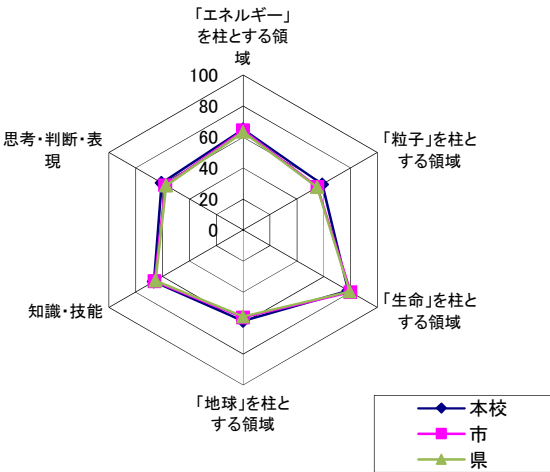
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●平均正答率は61.5%で、市の平均正答率より1.5ポイント下回っている。 ○大きな数の仕組みの理解を問う問題では、平均正答率が46.2%で、市の平均正答率より8.6ポイント上回っている。 ○2けた÷2けたの計算の問題では、平均正答率が66.2%で、市の平均正答率より1.2ポイント上回っている。 ●概数について理解し、目的に応じて見積もる問題では、平均正答率が66.2%で、市の平均正答率より6.8ポイント下回っている。 ●小数第二位×整数の計算の問題では、平均正答率が70.8%で、市の平均正答率より6.2ポイント下回っている。	・基礎基本の定着のため、スキルアップタイムを活用するとともに、確認テストの実施やAIドリル等を有効活用し、繰り返し練習して習熟を図る。 ・今後も大きな数は、一、十、百、千という数のまとまりの繰り返しであることを押さえるとともに、日常生活との関連を図りながら、大きな数を正しく読んだり書いたりできるようにする。 ・既習の整数の四則計算の仕方が、小数の場合でも成り立つことを押さえて、正しく計算できるように指導する。
図形	○平均正答率は69.2%で、市の平均正答率と同じであった。 ○三角定規を組み合わせてできた角の大きさを求める問題では、平均正答率が75.4%で、市の平均正答率より4.1ポイント上回っている。 ●立方体と直方体を見分ける問題では、平均正答率が76.9%で、市の平均正答率より9.2ポイント下回っている。	・今後も角の大きさについての感覚を正しく身に付けることができるように、角の大きさの見当をつけさせ、示された角の大きさを確かめたり作ったりする活動に取り組むことで、理解を深めていく。 ・立体の構成要素を覚えるだけでなく、それぞれの図形の相違点を見つける活動も取り入れることで、正しく理解できるようにする。
変化と関係	●平均正答率は53.9%で、市の平均正答率より0.9ポイント下回っている。 ○伴って変わる2つの数量の関係を式にする問題では、平均正答率が53.9%で、市の平均正答率より4.9ポイント上回っている。 ●割合を使った長さの求め方を問う問題では、平均正答率が32.3%で、市の平均正答率より9.5ポイント下回っている。	・テープ図や線分図を用いた二つの数量の比べ方を様々な考察の場面に取り入れ、割合で見ることのよさに気付かせる。 ・今後も自分の考えを共通の場で伝え合う活動を設定し、共有したり表現の質を高めたりしながら、的確に説明しようとする意欲を高める。
データの活用	●平均正答率は67.7%で、市の平均正答率より5.4ポイント下回っている。 ●二次元の表の意味を理解しているかどうかの問題では、平均正答率が53.9%で、市の平均正答率より20.4ポイント下回っている。	・二次元表に表す活動の際に、初めから分類整理された状態を与えるのではなく、実感を伴う数学的活動を工夫し、自分事として考えられるようにする。 ・表やグラフの読み取り方について、社会など他教科と関連付け活用するようにし、表を読み取る力を高めていく。また、表から読み取ったことを表現する際には、言葉や文で適切に表現できるように対話的活動の充実を図る。

宇都宮市立清原南小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	65.0	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	58.9	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	78.2	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	58.7	56.4	55.8
観点	知識・技能	66.5	66.0	65.3
	思考・判断・表現	60.8	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	○平均正答率は65.0%で、市の平均正答率より0.7ポイント上回っている。 ○回路の乾電池の向きを入れ替えたときの検流計の針の振れ方を問う問題では、平均正答率は70.8%で、市の平均正答率より5.3ポイント上回っている。 ●直列つなぎの名称を答える問題では、平均正答率は61.5%で、市の平均正答率より5.8ポイント下回っている。	・関連する理科用語については、理解を深めるために、機会を捉えて授業の中で確認したり、たしかめプリントを使ったりして定着を図っていく。 ・観察や実験などに関する技能を身に付けるとともに、生活経験をもとに予想する力や主体的に問題解決しようとする態度を育てるようにしていく。
「粒子」を柱とする領域	○平均正答率は58.9%で、市の平均正答率より3.5ポイント上回っている。 ○温められた空気の動き方を問う問題では、平均正答率は49.2%で、市の平均正答率より10.6ポイント上回っている。 ●空気と水を閉じ込めたときの体積や押し返す力の違いを問う問題では、平均正答率49.2%で市の平均正答率より7.3ポイント下回っている。	・実験や観察をした際には、状態の様子や変化、結果を自分の言葉で表現することで、理科用語の適切な使い方や意味について正しく理解できるようにする。 ・今後も興味関心をもって実験や観察を続けられるよう授業改善に取り組むとともに、体験として理解できるような機会を増やす。
「生命」を柱とする領域	●平均正答率は78.2%で、市の平均正答率より1.9ポイント下回っている。 ○骨のはたらきの理解を問う問題では、平均正答率は53.9%で、市の平均正答率より9.4ポイント上回っている。 ●調べたことを基に、2種類の動物の越冬の違いについて考える問題では、平均正答率は76.9%で、市の平均正答率より11.9ポイント下回っている。	・ICT、動画資料や模型等を活用し、直接調べるのが難しい内容についても知識を補えるようにしていく。 ・成長の記録を通年でまとめていくなど、植物の一生について理解が深まるよう指導していく。
「地球」を柱とする領域	○平均正答率は58.7%で、市の平均正答率より2.3ポイント上回っている。 ○空気中の水蒸気が結露する理由について考える問題では、平均正答率は40.0%で、市の平均正答率より9.5ポイント上回っている。 ●水たまりのできにくさについて、地面の水のしみこみややすさに関連付けて考える問題では、平均正答率は38.5%で、市の平均正答率より3.5ポイント下回っている。	・理由を筋道立てて記述できるように、実験の目的や予想、考察を書く機会を増やし、理学的な表現方法を繰り返し身に付けていく。 ・実験や観察したことが日常生活の体験や経験と結びつくようにさせることで、生活と密接な知識が獲得できるように、授業時間以外でも働きかけていく。

宇都宮市立清原南小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」に肯定的回答をした児童の割合は80.9%、「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である。」に肯定的回答をした児童の割合は54.5%で、どちらも市の平均を上回っている。また、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている。」に肯定的回答をした児童の割合は95.6%で、市の平均とほぼ同じであった。前年度から、自分の考えを伝えたり友達のを聞いたりする場や学び合うための話し合い活動を授業で設定してきたことが成果として表れていると考える。今後も伝え合いや話し合い活動を意図的に設け、自分の意見や考えを進んで表現できる児童の育成に努めたい。

○「学級活動の時間に、友達同士で話し合っクラスのきまりなどを決めていと思う。」に肯定的回答をした児童の割合は94.2%、「学校の決まりを守っていると思う。」に肯定的回答をした児童の割合は100%で、市の平均よりそれぞれ5.3ポイント、6.4ポイント上回っており、規範意識が高いことが伺える。今後も「きまり」や「きまりを守ること」の意義についての理解を深める指導をするとともに、学校生活の中でその意義を実感できるような活動を充実させ、主体的に「きまり」を守る力を引き出していけるようにしていく。また、児童が「きまり」を守れていることについては、そのよさを認め褒めることで、子供たちの意欲を高めていく。

○「自分には、よいところがあると思う。」に肯定的回答をした児童の割合は91.2%で、市の平均を7.6ポイント上回っている。また、「しょう来のゆめや目標をもっている。」に肯定的回答をした児童の割合は、94.1%、97%で、市の平均よりそれぞれ6.4ポイント、5.5ポイント上回っている。自己肯定感の育成やキャリア形成を意識した指導を続けてきた成果が表れている。

●「家で、学校の宿題をしている。」に肯定的な回答をした児童の割合が98.5%であるのに対し、「家で、学校の授業の予習をしている。」に肯定的回答をした児童の割合は、48.6%・55.9%・54.4%で、市の平均よりそれぞれ6～7ポイント下回っている。授業の内容をより深く理解したり、定着度を高めたりするために予習や復習が大切であることを児童に伝えるときに、家庭学習について内容や取り組み方などを指導したり保護者への啓発と協力依頼を行ったりして児童の意欲を高めていくようにする。

●「ぎ問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」に肯定的回答をした児童の割合は60.3%、44.2%で、市の平均よりそれぞれ7～9ポイント下回っている。また、「本やインターネットなどを利用して、勉強に関するじょうほうを得ている。」に肯定的回答をした児童の割合は61.8%で、市の平均を12.2ポイント下回っている。今後は、児童の興味・関心・意欲を高め、必要感のある課題の設定や進んで追究したくなるような教材の工夫を行い、児童が学習することの楽しさを実感し、児童と共に発見・創造していく授業づくりを行っていく。

宇都宮市立清原南小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自ら学ぶ意欲をもち、粘り強く課題解決の取り組む授業づくり	「教育のユニバーサルデザイン」の視点をとり入れ、クラス全員が授業に参加し、理解できるように指導の工夫を行い、全ての児童が学びやすい学習環境づくりを行っている。	「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」の肯定割合は、4・5年生ともに県や市の平均を下回っている。また、「勉強をしていて、おもしろい楽しいと思うことがある。」「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある。」「むずかしいことでも、失敗をおそれないでちよう戦している。」では、4年生と5年生の肯定割合を比べると、5年生の方が低くなっている。
児童同士の協働的な学び合いと教師のコーディネート力を生かした授業展開	児童の興味・関心・意欲を高め、進んで追究したくなるような課題の工夫や、教科の見方・考え方を広げたり、思考をつなぐたりする授業の実践を行っている。	「むずかしい問題にであうと、やる気がでる。」では、4年生の肯定割合は、県や市の平均を上回っているが、5年生は県や市の平均を下回っている。「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」では、4・5年生ともに県や市の平均を上回っている。しかし、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」では、どちらの学年も県や市の平均を下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい。」の肯定割合は、4・5年生ともに、県や市の平均を上回っている。また、教科に関する調査では、各教科とも記述式の設問での無回答率も低くはない。書くことに苦手意識をもつ児童がいることが分かる。	言語活動の充実と振り返りの工夫	授業終末時の振り返りでは、観点を明確にし、思考の過程を児童自身の言葉で論述する活動を意図的に取り入れることで、自分自身の成長を実感したり、学んだ知識・理解の定着を図れるようにしたりする。また、各教科の特質に応じて、言語活動を充実させるなどし、書くことに慣れさせていく。
「ぎ問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」に肯定的回答をした児童の割合は、県や市の平均を下回っており、主体的に粘り強く学習に取り組もうとする意欲が低く、意欲的に学習に取り組むための動機付けが弱くなっている。	児童が意欲的に取り組むための授業づくり	児童が自ら学びたい、解決の必要性を感じることでできる課題の設定を工夫するとともに、1人1台端末を効果的に活用したり、協働的な学びの場を意図的に設定したりするなど授業改善に取り組む。